

株主通信

Contents

- 01 トップメッセージ
- 01 上半期トピックス
- 02 財務ハイライト／セグメント別業績の概況
- 03 2025年10月、三井金属鉱業は「三井金属」へ。
- 04 Special Report
“機能箔”で、豊かでサステナブルな未来を創造する

- 06 なるほど！三井金属
 - ・パラスポーツ協賛
 - ・MOF
 - ・機能性液体
- 08 会社概要
- 08 株式の状況／株主メモ
- 08 役員



第101期

上半期報告書

2025年
4月1日2025年
9月30日

証券コード:5706



持続的な企業価値の向上に取り組んでまいります

株主の皆さんには日頃より格別のご高配を賜り厚く御礼申しあげます。第101期上半期が終了しましたのでご報告申しあげます。今年度は「2030年のありたい姿」で掲げた経常利益1,000億円、ROIC:14%の達成に向けた重要な中期経営計画「25中計」の初年度であり、既に半年が経過しました。「25中計」の進捗として、AIサーバー向け電解銅箔VSP™の驚異的な成長やROIC経営の深化および大胆施策^(※)の着実な進展、三井金属アクトの株式譲渡などポートフォリオマネジメント強化やガバナンス体制の強化等により、株式市場における当社の評価が高まっています。今後も「2030年のありたい姿」の実現に向けて引き続き企業価値向上に取り組んでまいりますので、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申しあげます。

※漸次的ではなく非線形な成長への変化を実現する施策

代表取締役社長 納 武士
のう たけし



上半期トピックス 2025

上半期(2025年4月1日～2025年9月30日)の主な取組みについてご紹介します。

5月

「A-SOLiD®」量産試験用設備の第2次生産能力増強投資

当社は70年にも及ぶ電池材料の研究開発の知見を活かし、全固体電池の開発ニーズに積極的に応えています。その結果、複数のお客様から当社の固体電解質「A-SOLiD®」が開発標準材料として位置づけられており、高い需要が見込まれます。そのため、2025年中に第2次生産能力増強を行い、設備導入時比較で4倍に増強します。さらに2027年には初期量産工場の稼働も計画しており、世界最大規模の固体電解質の生産能力を有する予定です。今後も全固体電池ならではの用途を創造し、サステナブルな社会づくりに貢献します。

7月

「心理的安全性AWARD2025」最高賞【プラチナリング】を受賞

当社は、「心理的安全性AWARD2025」にて、最高賞の“プラチナリング”を受賞しました。本アワードは心理的安全性を高める取組みを表彰するもので、『多様な人が集まる場で「みんなで渝しむ」風土づくり』をテーマに施策を紹介しています。専門的にも体系的な組織開発の施策であり、多様性のあるチームで楽しく実践している点が評価されました。今後も「最も重要な経営資本は“人”である」と認識のもと、多様性を活かし、一人ひとりがいきいきと活躍できる企業グループの実現に向けて取り組み続けます。

8月

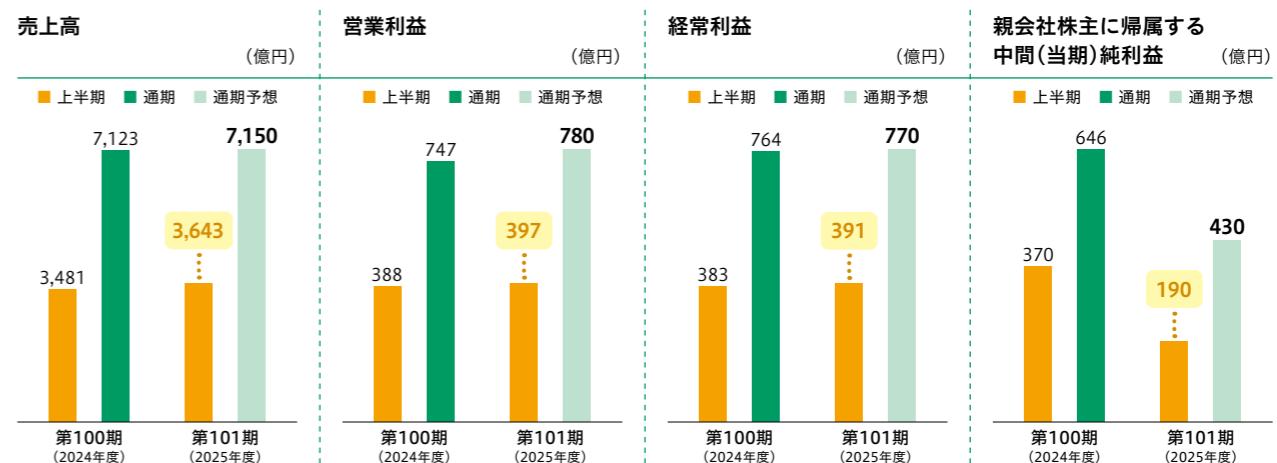
「FaradFlex®」の生産体制追加強化

マレーシア工場(Mitsui Copper Foil (Malaysia) SDN. BHD.)および上尾事業所にて製造している薄型基板内蔵キャパシタ材料「FaradFlex®」の生産能力増強およびBCP体制の構築が完了し、2026年3月までに現在の約1.6倍(2022年比で約3.5倍)まで生産能力を増強することを発表しました。成長事業に位置づけている本製品は、各種情報通信機器の高速化・大容量化に伴い大きな課題となっている通信ノイズを低減する材料として需要が急増しており、今回の生産能力増強によってより多くの製品への採用を目指します。

詳細は2025年5月13日発表のリリースをご覧ください。

詳細は2025年7月11日発表のリリースをご覧ください。

詳細は2025年8月21日発表のリリースをご覧ください。



※通期予想につきましては、2025年11月11日現在において入手可能な情報に基づき作成したものですので、実際の業績は今後様々な要因によって予想値と異なる場合があります。

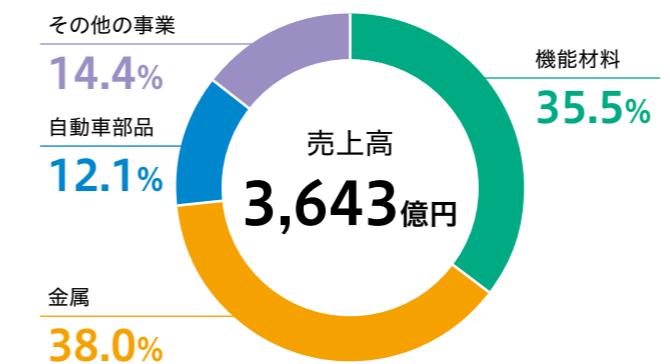
セグメント別業績の概況

機能材料セグメントは、MicroThin™をはじめとした主要製品の販売量が増加したことなどにより、売上高、経常利益ともに増加。

金属セグメントは、貴金属相場が上昇したことなどにより売上高は増加し、経常利益は為替や非鉄金属相場の変動に伴う在庫要因悪化などの影響で減少。

自動車部品セグメントは、在外子会社の本邦通貨への換算レートの影響により売上高は増加し、経常損失はコスト増などにより損失増加。

その他の事業は、一部子会社の株式を期中に第三者へ譲渡したことなどから売上高、経常利益ともに減少。



売上高
1,505億円
(前年同期比21.3%増)

経常利益
264億円
(前年同期比34.4%増)

売上高
1,612億円
(前年同期比3.9%増)

経常利益
184億円
(前年同期比24.1%減)

売上高
512億円
(前年同期比8.0%増)

経常損失
8億円
(前年同期比-)

売上高
608億円
(前年同期比7.2%減)

経常利益
0億円
(前年同期比91.9%減)

2025年10月、三井金属鉱業は「三井金属」へ。

2025年10月、三井金属鉱業は「三井金属」へと商号を変更しました。この商号変更は、150年以上にわたる長い歴史の中で培ってきた事業と想いを受け継ぎつつ、新たな挑戦を行うという強い決意の表れです。私たち三井金属は、鉱業・製錬から始まり、「マテリアルの知恵を活かす」多岐にわたる事業を展開し、社会に貢献してきました。これまでの歩みは、私たちの誇りであり、今後もその経験と知恵をもって、次世代のものづくりメーカーとして新たな価値を創造してまいります。

商号変更を機に、三井金属として新たなステージへ踏み出しました。これを皆さんに広くお伝えするために、新しい広告を展開しています。昨年展開した150周年記念広告に引き続き、俳優の井桁弘恵さんを起用しました。未来を見つめる井桁さんと、その周囲に漂う未来をつくるマテリアルをビジュアルデザインに取り入れ、私たちが新たな挑戦を通じて未来を築くという想いを表現しています。これからのお問い合わせに、どうぞご期待ください。

新聞広告



新しいものづくり、
新しいソリューション、
新しい未来。

マテリアルの知恵とともに、
新たな挑戦がはじまる

鉱業・製錬事業からはじまった私たち三井金属鉱業は、常に新たな価値創造と社会への貢献に挑戦し続けてきました。いま、その事業は鉱業・製錬にとどまらず、マテリアルの知恵を活かした様々な領域へと広がっています。そして、2025年10月。私たちは、新たな挑戦をはじめます。培った技術と知識で、この地域とそこに住む人々にとって欠かせないソリューションを生み出し続ける企業になる。そんな決意を胸に。

さあ、新たなステージへ踏み出した
三井金属に、どうぞご期待ください。

◆ 三井金属

2025年10月、三井金属鉱業は「三井金属」へ

(2025年10月2日 日本経済新聞朝刊掲載)

YouTube・TVerでの広告放映



▲ YouTubeにて「未来ミュージアム」篇をご覧いただけます。

交通広告



▲ JR大崎駅(南改札)

▲ 福岡空港(国内線ターミナルビル)

“機能箔”で、豊かでサステナブルな未来を創造する

銅箔事業について

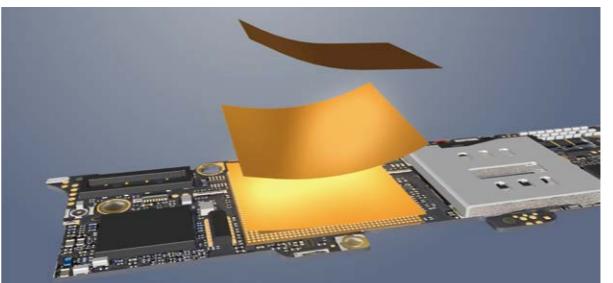
銅箔事業部は、電解銅箔のトップメーカーとして、幅広い品揃えと開発力で市場をリードしています。モバイル機器の高性能化・小型化に伴い、半導体パッケージ基板やその他の回路基板にも高密度細線が求められています。また、5G、AI、自動運転技術の進展により、通信機器や基地局、AIサーバーなどの用途で、高周波・高速伝送用の銅箔や回路のノイズを低減させる銅箔材料の需要が増加しています。これらのニーズに対応するため、今後も商品ラインアップを拡充し、技術革新を続けてまいります。

確かな品質をグローバルネットワークで世界市場に安定供給

三井金属の銅箔事業は、長年にわたりグローバルな安定供給力とユーザー対応力を強みとしています。安定供給を永続的に実現するために、開発・生産・加工物流等の各種事業拠点を日本国内のみならずアジア・北米に展開しています。

生産拠点は日本(埼玉県上尾市)、台湾、マレーシアの3か所にあり、多拠点化によるBCP体制を構築しています。電解銅箔の生産能力は3拠点合計で月産4,200トンを有しています。その中で極薄銅箔MicroThin™は日本とマレーシアで月産合計490万m²の生産能力、VSP™は台湾とマレーシア2拠点合計で月産620トンの生産能力です。

また、製造拠点以外にも加工拠点として蘇州、営業拠点として香港、マーケティング拠点として日本、米国、中国(上海・深圳)、台湾を有しており、グローバルなネットワークでお客様のニーズに応えています。

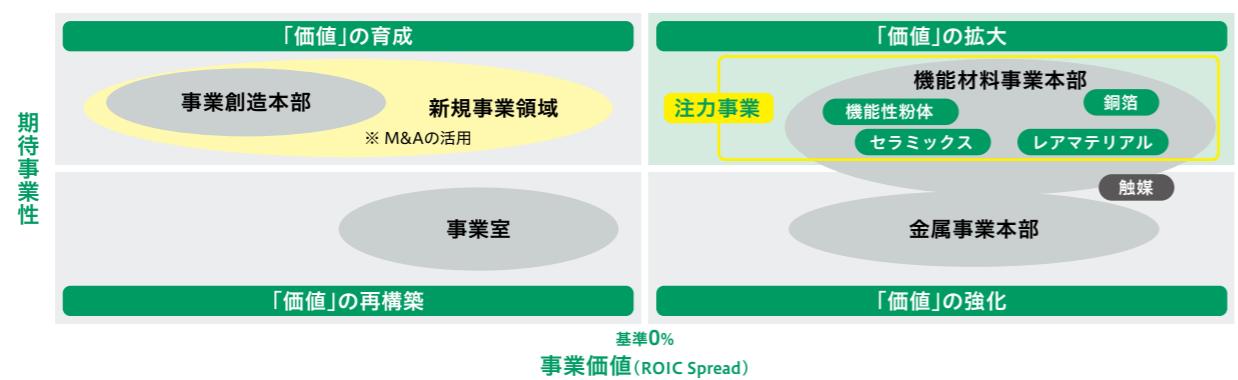


中期経営計画「25中計」における「銅箔事業部」の位置づけ

銅箔事業部は、「25中計」における注力事業の中で価値の拡大が最も期待されています。

事業部の2030年のありたい姿「“機能箔”で新たな価値を成長市場へ提供する」を達成するために、情報社会の進化を支える素材の生産能力の増強、新商品の開発を継続します。

事業評価マトリクス

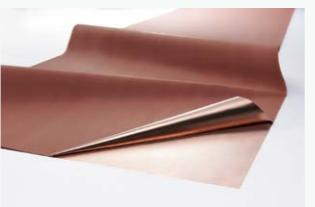


→ 2025年5月21日発表の「25中計」資料P.25をご参照ください。

主要製品

1 MicroThin™

キャリア付極薄電解銅箔「MicroThin™」は、微細回路形成に適した1.5~5μmの厚みと複数種の微細な粗化処理を組み合わせた製品です。安定して大量生産する技術を確立し、世界シェア98%以上と圧倒的な地位を誇っています。「MicroThin™」はその優れた性能と高い信頼性により、最先端の電子機器に不可欠な素材として広く採用されています。



用途
高密度半導体パッケージ基板
スマートフォン向け高密度ビルトアップ基板
データセンターや車載向けメモリ基板等

2 VSP™

高周波基板用超低粗度電解銅箔「VSP™」は、優れた表面平滑性と微細粗化処理により、信号の電送ロスを大幅に低減する高機能な銅箔です。



3 FaradFlex®

各種情報通信機器の高速化・大容量化に向けて大きな課題となる電源ノイズの低減に寄与するキャパシタ材料です。表面実装部品を減らして基板サイズを小さくできます。



FaradFlex®を使用したキャパシタ層

用途
高性能ルーター・AIサーバー機器の高多層基板、スマートフォンに内蔵されるMEMSマイクロフォン等

事業部の取組み

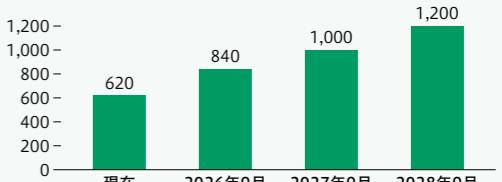
□ 生産体制の増強

当社VSP™は高周波数帯におけるプリント基板の伝送損失低減に大きく寄与することから、サーバー、ルーター、スイッチ等の高性能通信インフラ機器に採用されています。足元AIインフラ関連向けにハイグレード品が量産フェーズに移行し、ビッグデータでの採用が進むなど市場での需要が急激に増加しており、生産体制の増強を段階的に行ってまいります。

増強計画

現在月産620トン、2026年9月には840トン、2027年9月には1,000トン、2028年9月には1,200トンへ増強を計画しています。今後もさらなる需要拡大に応じた増強も視野に入れ、旺盛な需要に十分対応してまいります。

VSP™増強計画



※開発試験用処理機

□ 新規商品開発の取組み

当社はVSP™、MicroThin™、FaradFlex®のさらなる高性能化を目指して、昨年稼働開始した開発試験用処理機を活用し、新たな開発チームの設立や人員増強を進め、顧客ニーズを先取りした革新的な技術と価値をスピーディーにお届けします。

□ 環境への貢献

再エネ電力の利用と環境貢献製品の創出

① 製品製造時の使用電力の再エネ化

・銅箔事業部全体: 50%

・上尾工場: 100%

・海外工場(マレーシア、台湾): 38%

利用電力の再エネ化率
100%



1 なるほど! 三井金属

社会的価値向上への取組み 「パラスポーツ協賛」「MOF」



今年度よりパラスポーツへの協賛を開始

三井金属グループは、2025年4月より一般社団法人日本パラクライミング協会とブラインドサッカー®女子日本代表への協賛を開始しました。

当社は、「最も重要な経営資本は“人”である」という認識のもと、障がい者を含む様々な属性の多様性を重視し、全ての人材が考え方や経験を活かしていきいきと働くことができるDE&Iの実現を重要な

■ 日本パラクライミング協会



写真提供：一般社団法人日本パラクライミング協会

経営戦略の1つとしています。

今回のパラスポーツ協賛を通して障がい者への支援を行うことに加え、社内外でのパラスポーツ関連のPR活動や各種イベントを通して、従業員のパラスポーツへの理解を深め、DE&Iのさらなる促進を図るとともに、パラスポーツの認知度向上および共生社会の実現を目指します。

■ ブラインドサッカー®女子日本代表



写真提供：鰐部春雄／日本ブラインドサッカー協会

当社の障がい者雇用について

当社は、大崎本社ステップ&サポートセンターや三池地区の洗濯職場など、障がい者職場の設置・拡大に取り組み、各事業所社においても障がい者の採用活動を取り進めた結果、2025年6月1日時点の障がい者雇用率は2.80%となり、法定雇用率を0.30%

上回っています。また、2023年からは、全国障害者技能競技大会(アビリンピック)への協賛を実施しており、2025年大会では、当社からの出場者が「パソコン操作」競技で全国1位の金賞および厚生労働大臣賞を受賞しました。今後も障がい者支援を継続し、DE&Iのさらなる推進を目指します。

地球規模の社会課題の解決を目指す

2025年10月、金属イオンと有機分子を組み合わせて構成される多孔性結晶材料、金属有機構造体(MOF)の研究を行う北川進特別教授(京都大学高等研究院)ら3氏がノーベル化学賞を受賞しました。

当社は、数年来にわたり事業創造本部を中心に、MOFを含む多孔体材料の研究開発・事業化検討を進めています。今回の受賞者と関係が深いスタートアップへの出資を通じて、技術協力や共同研究を積極的に推進しています。多孔体材料は、CO₂削減や水資源の有効活用など、世界的に深刻化する社会

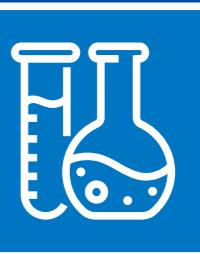
課題の解決に直結する可能性を示しており、当社の長い歴史の中で培ってきたものづくりの知見を活かし、環境に優しい量産技術や多様な市場での事業化を目指しています。

今後もパーサスである「探索精神と多様な技術の融合で、地球を笑顔にする。」を軸に、ものづくりを通じて持続可能な社会の実現に貢献します。



2 なるほど! 三井金属

新たな素材技術で“持続可能な未来”に貢献する 「機能性液体」



機能性液体で広がる共創と未来創出

機能性液体事業化推進部は、新規溶液シリーズiconos™および建築用防汚・防曇コーティング剤を中心とする、“機能性液体”を起点としたシーズと顧客ニーズのマッチングにより事業化を推進しています。当社が掲げるパーサス「探索精神と多様な技術の融合で、地球を笑顔にする。」を軸に「iconos™と新しい領域へ。」という理念のもと、他社との連携を通じて半導体・電池・エレクトロニクス・建材・農業といった幅広い領域で新たな価値の創出を目指しています。また、環境負荷の低減や資源循環の促進といったサステナビリティの実現にも注力し、社会課題解決に向けた挑戦を重ねています。私たちは、素材の可能性を広げることで、人・社会・そして地球が笑顔になる未来を、皆さんと共に築いてまいります。

ものづくりの常識を変え、
素材をアップデートする — iconos™

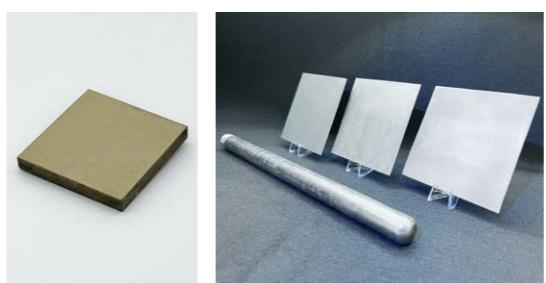
iconos™は、レアメタルに代表される難溶性元素を、当社独自の技術により溶液化した新材料です。固体や粉末では難しかった金属や酸化物の加工を、液体の形で自在に行うことができます。これにより、従来実現できなかった複合化および表面改質、製造工程の簡略化やエネルギー使用量の削減を実現し、コストや環境負荷を低減します。また、均一な薄膜形成や微細構造制御が可能となるため、従来にない新素材・新技術の開発も期待されます。iconos™は素材開発の自由度を高め、ものづくりの常識を変える材料です。



取組み事例

半導体製造の生産性向上にも期待

iconos™によるコーティングは、炭素材料や高級鋼材など、産業を支える基盤素材の耐熱・耐食性を大幅に高め、長寿命化を実現します。コート技術の大幅な進展により、黒鉛部材では、数倍以上の寿命延長が可能となりました。今後、半導体関連部材への適用によりメンテナンス軽減と生産性の向上が期待されます。半導体市場の成長を支える新たな基盤技術となることを目指します。



リチウムイオン電池の性能向上

iconos™コーティングにより、リチウムイオン電池向けマンガン系正極材における高電位領域のマンガン溶出・ガス発生といった積年の課題を克服しました。今後、顧客およびパートナーとの共同開発を通して、量産化と社会実装を加速し、次世代電池の高出力化・高エネルギー化を支える素材ソリューションとして展開してまいります。



OUTLINE

会社概要 (2025年10月1日現在)

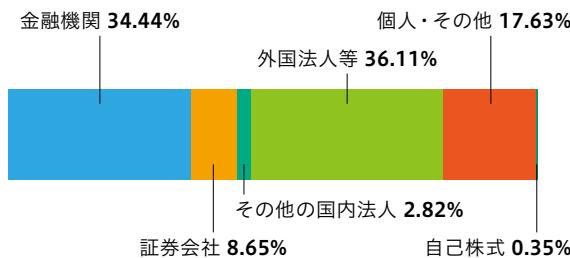
商号	三井金属株式会社 (Mitsui Kinzoku Company, Limited) [呼称: 三井金属 / MITSUI KINZOKU]
-----------	---

本店	東京都品川区大崎一丁目11番1号
設立	1950年5月1日
資本金	42,377百万円

株式の状況 (2025年9月30日現在)

発行可能株式総数	190,000,000株
発行済株式総数	57,415,430株
株主数	32,220名

所有者別株式分布状況



大株主(上位10名)

株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	10,356	18.10
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	6,510	11.37
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223	2,091	3.65
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505001	1,321	2.31
野村證券株式会社	1,193	2.08
ゴールドマン・サックス証券株式会社BNYM	1,172	2.05
野村信託銀行株式会社(投信口)	1,110	1.94
MSIP CLIENT SECURITIES	1,057	1.84
三井金属社員持株会	994	1.73
JPモルガン証券株式会社	941	1.64

※ 持株比率は自己株式(202,467株)を控除して計算しております。

※ 持株数は、千株未満を切り捨てて表示しております。

株主メモ

定期株主総会の議決権の基準日	3月31日
期末配当の基準日	3月31日
中間配当の基準日	9月30日
定期株主総会	6月下旬
株主名簿管理人・特別口座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
同連絡先	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-782-031 株式に関するお手続き・よくある質問はこちら https://www.smtb.jp/personal/procedure/agency

公告の方法

電子公告とする。[\(https://www.mitsui-kinzoku.com/toushi/stock_info/denshikoukoku/\)](https://www.mitsui-kinzoku.com/toushi/stock_info/denshikoukoku/)
ただし、事故その他やむをえない事由によって電子公告をすることができない場合は、東京都において発行する日本経済新聞に掲載して行う。

〈株式事務のお取扱い〉

1. 未払配当金の支払いのお申出先
左記三井住友信託銀行にお申し出ください。

2. 住所変更、単元未満株式買取等のお申出先

- ① 証券会社の口座へ株式をお預けになられている株主様は、お取引のある証券会社にお申し出ください。
- ② 証券会社の口座へ株式をお預けになられていない(特別口座に記録されている)株主様は、左記三井住友信託銀行にお申し出ください。

役員

取締役	監査等委員である取締役	常務執行役員	執行役員	フェロー
納 武士 代表取締役社長	戸井田 和彦 社外取締役	安田 清隆 常務執行役員 事業創造本部長	宮園 武志 杉元 晶子	薦田 康夫
池信 省爾 代表取締役副社長 兼 副社長執行役員 経営企画本部長	武川 恵子 社外取締役	石田 徹 社外取締役 監査等委員	加藤 和照 岡田 和之	理事
岡部 正人 代表取締役専務取締役 兼 専務執行役員／機能材料事業本部長	井上 宏 社外取締役 監査等委員	齋藤 修 常務執行役員 金属事業本部長	山本 拓也 若井 健太郎	大野 寿宏
山下 雅司 常務取締役 兼 常務執行役員 経営企画本部副本部長	川西 幸子 社外取締役 監査等委員	川原 誠 常務執行役員 技術本部長	吉本 誠一朗 須戸 達哉 関口 知生	
			田中 洋一 石田 新太郎	



三井金属株式会社
コーポレートコミュニケーション部
〒141-8584 東京都品川区大崎一丁目11番1号
TEL: 03-5437-8028

